

田園地帯のように、直角に交わる見通しの良い交差点。「こんなところで」と思う場所で、時に大事故が発生しています。「田園型事故」と呼ばれますが、原因のひとつに挙げられるのが運転手の目の錯覚です。

人の視界において、中心視野と

呼ばれる両目で「よく見える」部分は、せいぜい正面を中心に左右30度程度。それ以外は周辺視野と呼ばれ、左目か右目の片方で見ている「何となく見える」部分です。例えば、十字路交差点

## 運転中の「目の錯覚」

にあなたが車で進入し、左手（あるいは右手）からも同時に同じくらいの速度で別の車が進入した場合、双方の運転手が正面を向いたままで「周辺視野」で見えているはずの車が止まっているように錯覚し、減速

せずに衝突してしまいます。双方が

「急に車が現れた」と感じるのです。交差点では、目だけでなく、顔全体を左右に向け、減速して安全確認を徹底することが大切です。



交通安全三原則